

「歴研で学んだこと」

香西 謙二

(教育・平成5年卒・高松市立一宮小学校)

香川大学教育学部を卒業して、もう30年近くになります。一昨年、昨年度と用事で教育学部の構内を歩くと、その当時のことを思い出しました。私は、歴史学研究室(通称『歴研』)に所属し、「日本史中世」の領域について学んでいました。

私は、高校2年生までは理科系の大学に進学しようと考えて、理系を選択していましたが、高校時代の部活(コーラス部)の顧問の影響で、教師の道を志すようになり、香川大学への進学を考え、希望通り香川大学へ進学することができました。

大学に入学し2年生になると、「日本史中世」でのゼミは本格的に始まりました。しかし古文・漢文が苦手な私が中世や近世の古文書を読むことは、当初は大変しんどかったことを覚えています。しかし、古文書を読みこなしていくうちに、次第になんとか読めるようになり、古文書を書いた当時の様子や人々の思いを読み取ることが少しずつではありますができるようになってきました。

今振り返ってみると、『歴研・日本史中世ゼミ』で学んだことが私の考え方や研究の基盤となっていることに間違いありません。私は、大学を卒業後、高松市内の小学校に赴任し、研究教科を社会にして、教材づくりや研究授業に向けての教材研究を行いました。教材研究をする上で私は、「資料に向き合うこと」を大切にしてきました。例えば、「資料に向き合うこと」は歴史分野であれば、出典資料の原本を実際に読み、自分の手で読み物資料にしました。既存の資料を使うことは簡単ですが、原文に触れ、原文を基にして資料をつくることでその時代を生きた人々の思いを組み込んだ資料になるのです。今後も、次の教育を支えていく若い先生方に伝えていければと考えています。

さて、この文章をかいているときに、世界では大変なことが起こっています。それは、「ロシアのウクライナ侵攻」です。私が、大学2年生(1990年)のとき、「イラクのクウェート侵攻」が起きました。その当時、テレビ越しに、暗闇の中を切り裂く数え切れない砲弾や破壊された建物や戦闘車両の映像を見て、戦争の恐怖を実感しました。その時と同じようなことが、ウクライナでも行われているのです。戦争は、最も基本的な人権の一つである、生存する権利さえも脅かされます。この意味で、「戦争は最大の人権侵害」であると言われています。最大の人権侵害が起こっている状況を鑑みて、人権・同和教育の大切さを実感するとともに、人権文化をどんどん広げていく必要をさらに感じています。

終わりにになりましたが、私事ですが本年度より松楠会の高松支部の世話役の一人名となり、松楠会のさらなる発展のために一つ一つ取り組んでいこうと考えております。同窓会の皆様にも、さまざまな形でご指導していただきたいと考えております。今後もどうかよろしく願いいたします。